

引退前後の中高年家計の貯蓄動向

北村 智紀・臼杵 政治・中嶋 邦夫

〈要旨〉

本稿は厚生労働省の『中高年者縦断調査』を利用して，高齢者家計の貯蓄動向について分析した．2005年時点で正規雇用の既婚家計を対象に，家計年収，夫の就業状態の変化，純金融資産保有額と貯蓄率との関係，及び親族介護の有無，6大疾病の診断，1年以内の退職経験，年金受給，配偶者の収入の有無と貯蓄率との関係を分析した．分析の結果，夫が引き続き就業している家計では，平均的には，正の純貯蓄があった．一方，夫が無業になると貯蓄を取り崩す傾向があり，ライフサイクル・モデルと整合的な結果であった．しかし，就業状況によらず，年収が高い家計では正の純貯蓄，低い家計では貯蓄の取崩しも確認された．配偶者の収入は純貯蓄の取崩しを抑制する効果があり，予備的貯蓄の傾向が見られた．6大疾病の診断は純貯蓄を低める効果があった．親族介護，年金受給の有無，退職経験は貯蓄率に影響を与えていなかった．